

●共助による除排雪活動を支援します ～共助による除排雪活動活性化事業費補助金の募集案内～

募集 : 平成29年7月3日から随時(毎月末に締切・選定。選定団体数が補助予定団体数に達した時点で締切)
 対象 : 除排雪に関する地域課題を解決するため、平成29年度中(予定含む)に団体を設立し、支援活動に取り組む団体
 補助金 : 補助上限額:10万円(10分の10) 補助予定団体:10団体
 問合せ : 秋田県北NPO支援センターTEL:0186-49-3485(FAX共通)
 HP : <http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/11364> (秋田県生活環境部 県民生活課)

●NPO基盤強化資金助成「住民参加型福祉活動資金助成」

募集期間 : 9月1日～10月20日17時
 対象 : 5人以上で活動する営利を目的としない団体で、地域における高齢者・障害者・子ども等に関する複合的な生活課題に、地域住民が主体となって、包括的な支援を行なう活動に対して(法人格の有無は問わないが、社会福祉法人は除く)
 助成金額 : 1団体上限30万円(総額600万円を予定)
 問合せ : 公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団 (東京都新宿区西新宿1-26-1)
 HP : <http://www.sjnkwf.org/jyosei/juminsankagata.html> (詳細と申し込みフォームなど)

●第13回TOTO水環境基金

募集期間 : 8月10日～10月15日
 対象 : 水とくらしの身近な課題解決に貢献する営利を目的としない市民活動団体
 助成期間 : 2018年4月1日～(最長)2021年3月31日
 助成金額 : 80万円/年×3年(最大240万円)
 問合せ : TOTO株式会社総務部 総務第二グループ担当:津田、原(北九州市小倉北区中島2-1-1)
 HP : <http://www.toto.co.jp/company/environment/mizukikin/group/index.htm> (詳細と申し込みフォームなど)

●2017年度国内助成プログラム(しらべる助成・そだてる助成)

募集期間 : 9月1日9時～9月29日15時
 対象 : 地域課題の発掘調査、戦略立案、事業の立ち上げ・実施・拡大・人材育成(組織の法人格の有無・種類は問わない)
 助成期間 : 2018年4月1日～(最長1年間:調べる助成 / 2年間:育てる助成)
 助成金額 : 計1億円
 問合せ : 公益財団法人TOYOTA財団 問い合わせフォーム(<https://www.toyotafound.or.jp/inquiry/>)
 HP : <http://www.toyotafound.or.jp/community/2017/> (詳細と申し込みフォームなど)



みちのくの国引き神話「三湖伝説」を解く旅

- 特集：八郎太郎を追う その1
- 活動団体紹介
- 助成金情報など

市民活動メモ

県内で集中豪雨が発生し、多くのボランティアが活動しています。自分もボランティア活動をしたいという方がいらつしやうと思います。その前に3つのポイントを踏まえて準備に臨みましょう。

- ①自己責任・自己完結型：自分の活動に責任を持つ(活動時の服装の十分な準備、宿の確保、電源対策、食糧の持参、家族や周りの理解を得る、ボランティア保険加入、約束を守る、絶えず自分を成長させる)。
- ②的確な情報収集：被災地の状況(天気・地理を理解する。当該ボランティアセンターのホームページで受け入れ人数などを確認する)。
- ③相手の立場を尊重する：善意のおしつけでなく、相手が何を助けてほしいかを確認し、考える。丁寧な言葉づかいを心がける。被災者の秘密やプライバシーを守る。

活動を展開していく中で、関係する機関や他のグループとの連携による活動も大切です。情報収集がしやすくなるなど、活動の幅に広がりがもてるようになります。以上のことを踏まえ、無理をせず活動しましょう。(高坂)

その他の助成金等は、秋田県市民活動情報ネット: <http://www.akita-kenmin.jp/> もご確認下さい

前後集記

ふるさとをまたない私は、どうにかして日本の土というものに触れてみたい。そういう気持ちから、民話探集の旅に出るようになりました。そこで私ははじめて、自分が日本の国に生まれたんだ。ここに、ふるさとがあるんだと感じたのです。(「龍の子太郎」のあとがき 松谷みよ子)

松谷みよ子さんの名作「龍の子太郎」は、信州の泉小太郎と秋田の八郎太郎の影響を受けて作られたという。(民話の世界より)

昔話には、土地の人々の考えや思いが込められていて、それは大地そのものに育まれ濃縮されたふるさとのエッセンスのようなものなのでしょう。それが事実であるかどうかは問題ではなく、形を変えながら語り継がれた物語から、わたしたちは昔の人々と同じ体験を共有します。そして同じふるさとに骨を埋めることを確認して、次の新しい物語を紡いでいくのです。

(五十嵐)

秋田県北部市民活動サポートセンター

●編集・お問合せ先
 〒017-0842 秋田県大館市宇馬嶺町48-1 秋田県北部男女共同参画センター内
 TEL:0186-49-8553 FAX:0186-49-8589
 HP: <https://akita-north-civic-act.jimdo.com/>
 Facebook: <https://www.facebook.com/akita.north.civic.act/>

●業務時間
 月火水金(木曜定休) 9:00-18:00 土日 17:00まで(年末年始は休業)

●発行元
 秋田県 あきた未来創造部 地域の元気創造課



なぜこんな地名がついたのか? なぜこんな昔話があったのか?
 ふるさと秋田にはたくさんのお話と、それに基づいた場所が残っています。
 身近なところのお話の中に、先祖たちがどう考え、どうふるさとを守ってきたのか、
 わたしたちの根源にある、魂のエッセンスが隠されているかもかもしれません。
 さあ、出かけて、出て行って、そして感じてみましょう。

〈特集〉八郎太郎を追う その1

「三湖伝説」ともいわれる秋田の八郎太郎物語は、十和田湖と八郎湯、そして田沢湖の3つの湖と男鹿半島ができた理由や、多くの地名由来をふくめ、郷土創世譚のように語り継がれている。しかし、南部地方に行くと、ライバル南祖坊は実在した人物として寺社に痕跡が残されている。



(左)集宮神社祠はストーンサークルのある大地の麓にある
(右)八郎太郎ゆかりの桂の井戸



(上) 独鈷大日神社の浮嶋龍神は、八郎の先祖了親に化け、妻と姦通したという



七座神社



扇田神明社
深閑沢 斗和多神社

秋田での八郎太郎は、かつて南部の盛岡藩領であった鹿角の草木という小さな集落で生まれたとされ、産湯をつかったと伝わる桂の井戸も残されている。だんぶり長者伝説で有名な小豆沢大日堂（鹿角市八幡平堂の上、大日霊貴神社）の起源にも八郎の先祖がかかわっている。十和田湖を追われた八郎太郎は、米代川を下りながらあちこちに住処（すみか）をつくろうとして追われていく。鹿角市大湯の環状列石の麓にある集宮神社は、土地神が相談した場所であるとも、龍の鎌を鉄を集めた場所であるともいわれている。大里の川原稲荷神社（鹿角市八幡平大里川原）の稲荷神は、この相談に加わらず、五ノ宮嶽から流されたのだという。

八郎太郎の物語を考える際に、信州の『泉小太郎』という龍伝説と比較してみたい。小太郎は住処（すみか）を追われた八郎とは対比的に、母の犀龍とともに安曇野の大地を切り開いた英雄であるが、この伝説の舞台が犀川といい、小太郎は独鈷山の大神の子であった。八郎太郎の親、久内の先祖了親は、比内町（現

八郎太郎伝説は、鹿角市から比内町を経て北秋田市へと向かう。扇田神明社（大館市比内町）には八頭龍神（八郎太郎）がまつられている。深閑沢の斗和多神社（北秋田市深閑沢）の由緒は不明だが、青龍大権現（南祖坊）が北秋でまつられている場所は珍しい。由緒ある伝承を持つのが、県北随一の古社、七座（ななくら）神社（能代市二ツ井）である。ここは支流の阿仁川・小阿仁川が合流し、さらにきみまち阪で藤琴川と粕毛川も取り込み、米代川が大河の様相となる場所である。ここに湖をつくるうとした八郎太郎を七座の天神がネズミに穴を掘らせて邪魔をしたとされ、その間、ネコを集めてつないでおいた場所が猫繋（つなぎ）から小繋になったという地名譚が残り、八郎が投げたという岩が神社の対岸に沈んでいる。ここすらも追われた八郎太郎は、終の住処を求めてさらに西へ西へと逃れ



(右) 八郎が投げたという岩が沈む七座天神の淵



(上)七崎神社に残る推定樹齢千年を超える3本の巨木のうちの1本

(下)盛岡永福寺の石碑 (下)十和田神社(十和田湖畔)



八郎太郎がつくつたとされる場所や地名は、北東北に数多く残されている。まるで文字に残されなかった国引き神話のようである。国引き神話という、出雲国風土記の冒頭で、八東水臣津野命（やつかみずおみつぬのみこと）という巨人が能登半島や朝鮮半島から国士を引き寄せて島根半島をつくつたことが語られているが、海外では、北欧神話の女神ゲフィオンが4頭の巨大な牛に曳かせて国土を広げた話がある。かつて東北地方は、文字を持たない蝦夷の国であったため、古い時代の物語は口づてで昔語りとして伝えられるしかなく、風土記のような文書として残されることはなかった。しかし、約一千年前に十和田が噴火し湖ができ、米代川を火砕流が流れたこと、男鹿半島が島であったこと、田沢湖がとても深いことなどは、古（いにしえ）から人々の記憶に大きな謎として残された。語り継がれるうちに、それは人智を超えた「龍」や「巨人」や「鬼」などの存在でなければなし得ない技の跡とされていったのだろう。

八郎太郎を十和田湖から追い出し青龍大権現として十和田湖の主となった南祖坊は、南部地方（青森県東部から岩手県北部）では実在の僧として語られている。八郎太郎も、南部では八の太郎ともいわれ、八戸の十日市で生まれた八太郎沼の主子であることとされ八太郎の地名も残る。南祖坊が修行したという七崎（ならさき）神社（八戸市豊崎町上永福寺）と普賢院は、かつて永福寺として栄えた。盛岡の永福寺は現在も残りその縁（えにし）を伝えている。七崎神社には、北斗七星をかたどり7本の杉を植えたといわれ、そのうちの3本は現存しており「神の杉」と地域の人々に崇（あが）められている。十和田湖は、この七崎永福寺の修験僧たちの活動によって開山されたという。十和田神社の近くには、修験の熊野神社や青龍大権現堂も建てられている。

NPO法人 ハートランドひまわり 〈就労継続支援B型事業ワークサンフラワー〉

活動団体の紹介

●住所
秋田県大館市釈迦内字下清水126-1
就労継続支援B型事業ワークサンフラワー

●代表 湊屋 和子(理事長)

●問い合わせ
TEL 070-1144-0069
e-mail : hartland.himawari@gmail.com
HP : https://oodatehimawari.jimdo.com

障害者支援・地域交流

ニ〇一七年八月一日、ハートランドひまわりは、障害福祉サービス事業者の指定を受け就労継続支援B型事業所「ワークサンフラワー」を開所し新事業をスタートさせた。

精神障がい者と家族、そしてその支援者が、地域に関わりを持ち、社会貢献を通して、共に理解を深め合いながら生活していくためのコミュニケーションスキルを高めていく目的で続けてきた活動から、継続して活動が続いていくための新しい就労の場へと一歩踏み出した。御成町から移転した新しい事業所は、開放感に満ちた恵まれた環境である。現在、「利用者」と「手伝い隊」利用の依頼の双方を受け付けている。

基本的な活動としては、今までどおり。

- チョコレート手伝い隊活動
お祝い、買い物代行、草取り、雪寄せ等
- 交流活動
- 野外調理実習・スポーツ大会等
- 木工製作・手芸活動
杉箸などの木工品や、刺し子、マスコット、アクセサリーの製造販売等
- イベント参加
きりたんぼまつり、マンモスフリーマーケット等の地域イベントへの参加
- 家族会(月一回)